



日 歯 発 第 1604 号
平成 23 年 1 月 19 日
(庶 務 課 扱 い)

厚生労働大臣
細 川 律 夫 様

社団法人 日本歯科医師会
会 長 大久保 満 男

歯科医師需給に関する要望

平素より本会会務の運営にあたりましては、特段のご高配を賜わり厚く御礼申し上げます。

わが国における歯科医師数は、政府がその過剰対策に取り組み始めた昭和 61 年から 22 年間で約 33,000 名 (+50%) 増加し、未だ明らかに過剰な状況にあります。

さらに、それに加えて医療費削減策などによる歯科医療を取り巻く環境の悪化は、歯科大学（歯学部）の受験者数の著しい減少を来し、将来の歯科医師の質の確保にかかわる大きな懸念材料となっています。

日本歯科医師会は、国民に対し安心安全な歯科医療を提供するという責務に鑑み、下記の要望をいたします。

貴職におかれましては、本件につきまして特段のご理解を賜わり、文部科学省と連携を図られ、国の政策として今後の歯科医師需給問題の改善に向けてご尽力くださいますようお願い申し上げます。

記

1. 歯科医師国家試験について

- (1) 要介護者を含め、高齢者歯科医療、在宅歯科医療等に対する需要が高まることから全身疾患を有する患者に対応できるための国家試験の出題構成を検討されたい。
- (2) 歯科医師国家試験は選抜試験ではなく資格試験であることに鑑み、禁忌肢問題のあり方や受験者集団の得点数の高低にかかわらず相対的に一定の不合格者を決める相対基準方式を再検討されたい。

2. 歯科医師臨床研修について

- (1) 歯科医師臨床研修施設での患者の減少から臨床研修医の研修不足が懸念される。その中で、病院歯科を含めた歯科医師臨床研修施設への支援の強化を図られたい。
- (2) 高齢者歯科医療、在宅歯科医療等の需要が増すことから、全身管理や救急処置に関わる研修を拡充するなど、歯科医師臨床研修の充実について検討されたい。